

幼児をよき環境に憩はしめよ

砥上種樹

▲誰であつたか「七歳迄の子供を我が手にまかせよ。されば其の後は何人の手に渡すも氣遣ふ所がない」。云つて居たご思ひます。

ほんこに、それ程、幼児の教育は大切であります。でもその保育は機の發しないのに教へ込んだり作爲させたりする事ではありません。自然性の発達する中に、感じさせ、學ばせる事であり、よき環境に憩はせる事であらねばなりません。それが爲めには、親、保姆、教師は、ほろくごこぼれる様な愛と正しい希望と導く技術を持つて共に生活を營む事に力點を持たなければなりません。

そして、子供に導かれつゝ子供を導くことによつて、幼児の美しい芽はすくすく伸びて行くのであります。譬へば、春草が大地に暖められて、むくむく萌え出づる自然の恵み、偉大なる性は更に神の恩召による試練、試行の機

會によつて、風雨寒暑、鳥蟲のさまざまに促進され、障礙され等して、その姿が種々に變化して行くのであります。されば、個々の天賦を毀傷することなく、さりみて、放任することなく、よき環境に影響されつゝ輔導する事が幼児の教養上大切であります。

▲斯くて幼児の純真素朴な行動の中には、人間の有する本能や衝動が閃光的に表はれて来るが故に、その機を逸する事なく、よき芽を伸ばし、惡しきを昇華しようものなら三つ子の魂百迄の諺にふさはしく確き基礎を打立てることが出来るのであります。

故に優れた保姆、教師は、子供の一舉手一投足にも鋭敏に感知し、無意識的に、意識的に導くのであります。さいつて、決して急いではありません。怠つてもいけません。子供の自然性をつかむ爲めには子供の身體を支障なく

發育させるがよい。そして、成可大自然の中に存分に呼吸させ、遊戯させ、その一切の行動を潤み、眺めて保育の素材を拾はなければならぬ。否その本能の表はれこそ唯一の保育の機縁なのであります。

▲幼兒が一度、感受し又は表現したものは、永遠に沈潜して居て、何時かは、發芽するであらうと思ふ時、不用意の中に多くを潛眠させて居るこゝを怖れるのであります。見よ。幼兒のまゝご遊びを……その中には驚く程色々のものを表現して居るのに驚かされるであります。小學校六年の一兒童が小説を作りました。その着想さか筋は嘗て五つの時に子供芝居を見物したのがモチーフとなつて居るのであります。又、理科の時間に一兒童が魔法瓶の説明を上手にしました。それは嘗て幼稚園のころピクニックして食事の際に母親から語りきかされた事が頭に湧き出て來たのである云ふのです。又幼年時代田舎で暮した一児が高原の夏ごいふ小説を書きました。それには都會育ちの子供には到底表現し得ない田舎の情景を綴つて居ました。是によつて見ましても、潛眠させる教育？無意識の教育？、感應

させる教育？何と名づけてよいか其の言葉を知らないが、兎も角も、大自然を根蒂として、人爲的にもよき環境を作つて各感官を通じて豊潤に潛眠させる事を幼兒教育に工夫したいと思ひます。

▲まゝご遊び……このまゝご遊びを極めて、なめらかに教育に取り入れるならば、科學の芽も、道徳の芽も、藝術の芽等々、存分に伸びて遂には劣等生の名も消散するであらう事を信じます。それには、保姆や教師が全く幼兒の心にこけ込んで同じレベルになつて遊び得なければならぬ。否寧ろそのグループの氣分を醸成し得るまでになります。之れは幼稚園の保育ばかりでなく、小學校の教育に於ても、大切であり、これによつて、穀漬たる學習が形成されるのであります。

▲フレーベルの恩物の如きも、さうした生活態度の上に興へなければならぬのであります。

▲遊戯……放つておいても、自然になれるものを益々生かしてほしいのです。砂や土いじり、穴ぼり、水遊び、木登り、鬼ごっこ等は子供のたまり場で常にあかす成されて

居る處であります。又、四季の變化に伴つて産み出される石けり、繩子び又は、年長者の示唆によつて表はれる色々の遊び、或は大人の眞似や教育的に作られた遊戯、道具等によつて子供の心身が、すんく伸びて行くものであります。

▲作爲……遊戯から勞作へミ期案されるここは、貴いこことであります。掃除、花園の手入等はそれであります。でも常に、義務觀念よりする事なく、歡んで爲し、成し得たる事を感謝することを狙つて居たいものであります。

斯くて次第に發展して参ります、學習の域へミ向上して参ります。幼兒の遊びの中に描いたり、歌つたり、語つたり、工作したりする事があり、文字に興味を持つたり、數學を歡ぶ様になつたり致します。そこに當然的に學習の形體が創造されさうなところには、助成してやらなければなりません。

勿論、幼兒に於ては、遊びに出發した學習であらねばならない事は前に述べた通りであります。然るに往々子供の眞相を度外視して一つの細目を保守して之れに與へ、或は

個別化した取扱ひをうるさがつたりすることがあつたなら、幼兒の教育の上には暗雲が漂ふのであります。

▲幼兒は寸刻もお止みなく伸びて居るが故に、絶えず、環境のさまぐが無意識的に將又意識的に驚異を與へつゝそれが水泡の様に現はれては消えてしまふ様であります。其の實、心の奥深く潛眠して居るものであります。

躊躇して、それが顯在的に導かれる時期の到來するものであるから、よきを潛眠させるここに心掛け、その衝動するものを見華させるここに重點を置いて施設し經營する事が、幼兒教養的一大祈念であります。否これによつて幼兒はすくすく伸びて行くであらう事を信じて疑はないのであります。

東京女子高等師範學校保育實習科
入學募集は一月二十日の官報にて發表せられる筈です。尙詳細は貳錢郵券封入の上、同校教務課宛お問合せ下さい。